

インフォメーション・コーナー

会 告

| | |
|--|----|
| ○平成 22 年度農業農村工学会大会講演会の開催について  | 74 |
| ○平成 22 年度農業農村工学会大会講演会企画セッション 「オープンタイプ」の発表者を募集します | 76 |
| ○学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!! | 76 |
| ○平成 22 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について | 77 |
| ○「農業農村工学会学術基金」の募金について | 77 |
| ○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのごお願い | 77 |
| ○身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「水土の知（農業農村工学会誌）」平成 23 年秋季～冬季の表紙写真の募集 | 78 |
| ○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております! | 79 |
| ○国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のごお願いと国際ジャーナル 「Paddy and Water Environment」について | 80 |
| ○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のごお願いと 2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ | 81 |
| 学会記事 | 82 |

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

 のマークは、技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

| 開催日 | 主催 | 行事名 | テーマ | 開催場所 | 掲載号 |
|-----------------------------|---------|--|-----|------|--------------------------|
| 平成 22 年 8 月 31 日～9 月 3 日 | 大会運営委員会 | 平成 22 年度農業農村工学会大会講演会  | | 神戸市 | 77 巻 12 号 78 巻 1, 3 号 |

第 78 巻第 4 号予定

展望：毛利栄征

小特集：パイプラインの再生技術

- ①通水シグナルの検出に基づく補修パイプラインの水密性能照査法の開発：鈴木哲也ほか
- ②豊川用水地域における水路システム新生と水路改築技術：岡田 明ほか
- ③オープン型パイプラインにおけるスタンド止水防止の新工法：前川勝朗ほか
- ④非開削工法による既設管の置換更新工法の概要：関 裕之ほか
- ⑤小口径管水路における管更生工法施工時の「しわ」の影響：坂野一平ほか
- ⑥パイプラインの特性を踏まえた管路更生工法の適用への取組み：鈴木隆善ほか

技術レポート

- 北海道支部：積雪のあるフィールドで土壌中の水の動きを観測する方法：岩田幸良ほか
 東北支部：自動埋設型暗渠排水工法による「靱殻疎水材の密度調査」：及川武美ほか
 関東支部：高炉スラグセメント表面被覆工法による堰補修：辻村 滋ほか
 京都支部：人工漁礁と小動物脱出路を用いた農業用水路の生態系配慮工：土井政人
 中国四国支部：湛水防除事業における排水機場基礎の設計・施工：真鍋友亮
 九州支部：宅地に隣接する農業用排水路の改修：古城 潤

小講座：農業用パイプラインの非破壊検査技術：鎌田敏郎

私のビジョン：千葉克己

平成 22 年度農業農村工学会大会講演会の開催について

平成 22 年度農業農村工学会大会運営委員会

技術者継続教育プログラム認定申請中



平成 22 年度農業農村工学会大会講演会は、平成 22 年 8 月 31 日 (火)、9 月 1 日 (水)、2 日 (木) の 3 日間、兵庫県神戸市の神戸大学六甲台第 2 キャンパスおよび鶴甲第 1 キャンパスにて開催されます。また、9 月 3 日 (金) には現地見学会を予定しています。

本報では開催要領、参加申込みなどについてお知らせします。講演会での講演申込みについては、本誌 2010 年 1 月号会告を、会場設備や発表プログラムの詳細等については続報(6月号)をご覧ください。

なお、講演発表を申し込まれた方も、別途、参加の申込みが必要です。

ご注意いただきたい点

- 平成 22 年 6 月 30 日 (水) までに参加申込みをいただき、7 月 30 日 (金) までに参加費の入金が確認された場合に限り、参加費の割引があります。
- 6 月 30 日 (水) までに予約参加申込みをいただいた方全員に、CD-ROM 版講演要旨集を、大会の約 2 週間前までにお届けします。
- 印刷製本版の講演要旨集は、本大会では 6 月 30 日 (水) までに申し込みいただいた方の人数分しか作成しません。締切日以降の申込みはできません。
- プログラム、学会賞受賞者紹介、全講演・ポスター発表の概要(200 字)などを集録した大会概要集は、大会当日、受付にて参加申込み者全員にお渡しします。
- 参加申込みは、ホームページ(または FAX)で受け付けます。農業農村工学会のホームページをご参照のうえ、ご利用下さい。
- 実行委員会で液晶プロジェクターおよび映写用パソコン(Power Point 2007 または Power Point Viewer 2007)を用意します。個人のパソコンの持ち込みをご希望の方は各自で機器の接続切り替えをお願いします。

1. 開催要領

受付開始: 8 月 31 日 (火) 8:45~

(1) 開会式典および学会賞表彰式:

8 月 31 日 (火) 9:30~11:30

会場: 神戸大学六甲台第 2 キャンパス
神戸大学百年記念館(神大会館)六甲ホール
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1

(2) 交流会: 8 月 31 日 (火) 19:00~20:30

会場: 新神戸駅前 クラウンプラザ神戸 10 階
ザ・ボールルーム
〒650-0002 神戸市中央区北野町 1 丁目
☎078-291-1121

(3) 講演会: 8 月 31 日 (火)、9 月 1 日 (水)、2 日 (木)

会場: 神戸大学鶴甲第 1 キャンパス 共通教育棟

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲 1-2-1

詳細は、プログラムとともに 6 月号に掲載する予定です。

(4) 現地見学会: 9 月 3 日 (金) 8:30~15:00 JR 三ノ宮駅発着

事前予約制とします。申込締切は 6 月 30 日 (水)。

○コース 「兵庫・東播磨地域の水利ネットワーク探訪」

長年水不足に悩まされた東播磨地域の国営事業による大きな水利ネットワークが形成されるまでの歴史と、全国 1 位の約 43,000 のため池数を誇る兵庫県での地域住民との参画と協働によるため池を核とした地域づくり「いなみ野ため池ミュージアム」の取組みなどを紹介します。

【8:15 JR 三ノ宮駅(東口)集合 8:30 出発→9:10 呑吐ダム着 10:10 発→10:20 防災公園・E-defense 着 11:40 発→12:30 加古大池着(昼食) 14:00 発→15:00 頃 JR 三ノ宮駅着→15:10 頃新神戸駅着】

- ・呑吐ダム(三木市) ダム等の基幹水利施設を一元管理した広域農業水利施設総合管理事業
- ・兵庫耐震工学研究センター(三木市) 実大三次元振動破壊実験施設(E-Defense)見学
- ・加古大池(稲美町) ため池を核とした地域づくり「いなみ野ため池ミュージアム」

*経路は変更になる場合があります。また、申込みが少ないときは中止する場合があります(最小催行人数:約 20 名)。

2. 参加費用

(1) 参加費用と内容: 次の表をご覧ください。

| | 予約申込み | | | | 当日申込み | |
|---------------|------------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 一般 | 学生 | 一般 | 学生 | 一般 | 学生 |
| CD-ROM 版講演要旨集 | 全員配布 | | | | 当日配布 | |
| 大会概要集 | 当日配布 | | | | 当日配布 | |
| 申込締切日 | 6 月 30 日 (水) (以降は受け付けません) | | | | 大会当日 | |
| 支払締切日 | 7 月 30 日 (金) | | | | 大会当日 | |
| 印刷製本版講演要旨集 | 希望者のみ | | なし | | なし | |
| 会員種別 | 一般 | 学生 | 一般 | 学生 | 一般 | 学生 |
| 参加費 | ¥11,000 | ¥9,000 | ¥5,000 | ¥3,000 | ¥7,000 | ¥5,000 |

(2) 交流会(出席者全員) 一般 7,000 円, 学生 3,500 円

(3) 現地見学会 3,500 円(昼食代 1,100 円を含む), 事前予約制, 先着 50 名(上限), 申込締切は 6 月 30 日 (水) とします。

3. 申込方法

参加申込みは、ホームページ（またはFAX）にて受け付けます。業務簡素化のため、ホームページからの申込みにご協力下さい。なお、電話での申込み・問合せはご遠慮下さい。参加申込み後に変更、取消が生じた場合は、参加申込書（FAX用）の連絡事項欄に「変更」または「取消」と大書し、修正事項を明記してFAXにて速やかにお知らせ下さい。

- (1) ホームページによる申込み
農業農村工学会のホームページからお入り下さい。

<http://www.jsidre.or.jp/kobe-taikai/>

- (2) FAXによる申込み
下記宛にお申し込み下さい。
(株)日本旅行神戸支店 濱田 あて
FAX 078-371-2816

4. 支払方法

クレジットカードによるお支払いに対応いたします。

お振込みの方は、7月30日（金）までに下記の指定銀行口座へお振込み下さい。この場合、振込手数料は振込人の負担となります。

振込先：みずほコーポレート銀行
店 名：十五号支店（読み：ジュウゴゴウシテン）
種 別：普通
口座番号：3101501
口座名：（株）日本旅行
*振り込み手数料はご負担願います。
*請求書到着後、1週間以内でのお振込みをお願い申し上げます。
*振り込み人名は、申込本人名として下さい。

6月30日（水）までに参加申込みをされ、7月30日（金）までにご入金がなかった場合には、大会当日の受付にて当日申込み扱いの参加費を申し受けます。

会社経費・公費等によるお支払いにも対応いたします。
講演会・交流会参加費、お弁当代は原則として払戻しはいたしません。現地見学会参加費は申込みが最小催行人数未満、もしくは天候等により中止とした場合は振込手数料を除き払い戻しいたします。

5. 講演要旨集の事前送付について

6月30日（水）までに参加申込みをされた方全員に、CD-ROM版講演要旨集を、大会の約2週間前までにお届けします。

印刷製本版の講演要旨集を申し込まれた方には、大会当日、受付にてお渡しします。ただし、参加申込みをされ、7月30日（金）までにご入金がなかった場合には、大会当日の受付にて当日申込み扱いの参加費と印刷製本版講演要旨集の差額の合計（一般13,000円、学生11,000円）を申し受けます。また、事前に送付を希望される方は、参加申込みの際にその旨、ご明記下さい。1部につき500円の送料をいただいたうえで、大会の約2週間前までにお届けします。

6. 昼 食

大学食堂は混雑が予想されますので、弁当の予約を受け付けます。

弁当は、1食800円（お茶つき、消費税込）です。ホームページもしくは参加申込用紙に必要事項を記入してFAXにてお申し込み下さい。

7. 託児室について

今回の大会では託児所をご用意いたしませんのでご了承下さい。

8. 宿泊等の斡旋

各自でご手配をお願いします。なお、ホームページにおいて、若干数の宿泊の申込受付をしております。詳しくはホームページをご覧ください。

9. 会場までの交通案内（神戸大学全般 URL <http://www.kobe-u.ac.jp/info/access/index.htm>）

- (1) 開会式・表彰式会場：神戸大学六甲台第2キャンパス
神戸大学百年記念館（神大会館）六甲ホール
URL <http://www.kobe-u.ac.jp/info/access/rokko/bunri-nou.htm#themap>

①バス：阪神「御影」駅、JR「六甲道」駅、阪急「六甲」駅より神戸市バス36系統「鶴甲団地」行きまたは「鶴甲2丁目止まり」行き乗車「神大文理農学部前」下車、徒歩2分
（阪神「御影」駅から約35分、JR「六甲道」駅から約20分、阪急「六甲」駅から約15分）

②タクシー：阪神「御影」駅より約25分、JR「六甲道」駅より約10分、阪急「六甲」駅より約5分

③自家用車：来訪者専用の駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用下さい。

- (2) 講演会会場：神戸大学鶴甲第1キャンパス共通教育棟（講演会会場は、開会式会場から、徒歩で約15分のところにありますのでご注意願います。）

URL <http://www.kobe-u.ac.jp/cooperation/open/facilities/pdf/IPHE/map.2pdf>

①バス：阪神「御影」駅、JR「六甲道」駅、阪急「六甲」駅より神戸市バス16系統「六甲ケーブル下」行き乗車、「神大国際文化学部前」下車、徒歩3分
（阪神「御影」駅から約45分、JR「六甲道」駅から約30分、阪急「六甲」駅から約25分）

②タクシー：阪神「御影」駅より約15～20分、JR「六甲道」駅より約10～15分、阪急「六甲」駅より約5～10分

③自家用車：来訪者専用の駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用下さい。

- (3) 交流会会場：新神戸駅前クラウンプラザ神戸

URL <http://www.cpkobe.com/access/>

①鉄道：山陽新幹線「新神戸」駅下車またはJR・阪神・阪急「三宮」駅より市営地下鉄「新神戸駅」下車、徒

歩5分

*講演会場からは公共交通機関をご利用下さい。

*三宮駅までは、阪急「六甲」駅より三宮駅方面行き乗車(3駅目下車)でお越し下さい(約10分)。

10. 問合せ先

(1) 参加申込みに関する問合せ

(株)日本旅行 神戸支店

担当：濱田康之・樋口敬和

〒650-0044 兵庫県神戸市中央区東川崎町1-3-2

☎078-371-2810 FAX 078-371-2816

E-mail: yasuyuki_hamada@nta.co.jp

(2) 大会全般に関する問合せ

平成22年度農業農村工学会大会講演会事務局

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

神戸大学大学院農学研究科食料共生システム学専攻
事務局担当 井上一哉

TEL&FAX: 078-803-5853

E-mail: mornel@kobe-u.ac.jp

または、

実行委員長 田中 勉

TEL&FAX: 078-803-5901

E-mail: ttanaka@kobe-u.ac.jp

11. 運営委員会

委員長 内田一徳

神戸大学大学院農学研究科食料共生システム学専攻

12. 後援 兵庫県

平成22年度農業農村工学会大会講演会 企画セッション「オープンタイプ」の発表者を募集します

平成22年度農業農村工学会大会講演会(8月31日~9月2日、神戸大学共通教育棟 鶴甲第1キャンパス)では、例年のように「企画セッション」を開催します。ついては、次の企画セッション(オープンタイプ)の発表者を募集いたします。企画テーマ:「流域総合管理のための水文・環境評価モデルの適用と課題」

オーガナイザー: 琉球大学農学部 酒井一人

申込・問合せ先: ☎098-895-8781 FAX 098-895-8734

E-mail: ksakai@agr.u-ryukyuu.ac.jp

企画セッションの概要:

昨今、水文モデルは流域総合管理ツールとしての重要性を増しており、多くのモデルが開発されWEBで公開され

ているものもある。それらモデルには、水文モデルだけでなく、土砂流出モデルや水質モデル、さらには作物モデルを組み込んだものもあり、入力データ整理など適用における課題も多い。そこで、本企画セッションでは、これらのモデルを実際に適用している研究者にモデル適用の現状と課題について報告してもらい意見交換を行う。

この企画セッションで発表を行いたい方は、3月19日(金)までにオーガナイザーにコンタクトをして下さい。なお場合によっては締切を早める場合もあります。

その他の企画セッションの開催主旨は学会のHPに掲載しておりますのでご覧下さい。

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

行事企画委員会

技術者継続教育機構通信教育部会

学会誌を出典とした通信教育を平成18年11月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間10CPDポイント、また、通信教育で最大年間24CPDポイントが取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

なお、学会誌2月号に掲載された通信教育問題から配点を改正(正解率70%以上の場合1.0CPDポイントから1.5CPDポイントへ、正解率100%の場合1.5CPDポイントから2.0CPDポイントへ)いたします。詳細については、第53回通信教育問題(学会誌2月号65ページ)をご参照下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の正・学生会員で、かつCPD会員の方は、農業農村工学会のホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)にある参加申込書に必要事項を記載してメール(E-mail: sanka@cpd.jsidre.or.jp)あるいはFAX(03-5777-2099)でお送り下さい。

jsidre.or.jp)あるいはFAX(03-5777-2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>)に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 内容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に送信していただきます。

採点の結果、7割以上正解で1.5CPDポイント、満点で2.0

CPD ポイントが取得でき、CPD 会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

4. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

平成 22 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について

学術基金運営委員会

農業農村工学会では、平成 3 年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施してまいりました。

平成 22 年度は、規程第 4 条(1)の「特定の分野及び学術的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業農村工学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページで申請書をダウンロードして、E-mail で学会事務局までお申し込み下さい。

記

1. 援助の対象

農業農村工学会の会員（学生会員を含む）、または会員により構成されるグループ

2. 援助方針

- (1) 農業農村工学に関する特定の分野および学術的分野の調査・研究の推進に寄与と思われる研究について援助する。
- (2) 平成 22 年度中（平成 22 年 4 月から 23 年 3 月）に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援

助する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。

ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。

この場合は受理を条件として援助の可否について決定を行う。

- (3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1 件当たりの援助金の目安

1 件 15 万円程度を限度とする。

4. 申請締切 平成 22 年 4 月 30 日（金）

5. 報告の義務

援助を受けた者は、調査・研究、または会議の報告書を提出し、その原稿は学会誌に掲載される。

6. 申込み・問合せ

〒105-0004

東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館 3F

農業農村工学会 学術基金運営委員会

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成 3 年 4 月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成 21 年度までに 54 件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000 円（何口でも可）

法人会員一口 50,000 円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名（社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらした

ている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設

置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術の見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方は事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年ごと更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以下のとおりです。

① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学

会員とする。

② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。

③ 調査団の派遣期間は、原則 2~3 日とする。

④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する(年度予算限度額 300 万円)。

⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03-3435-8494、E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!

「水土の知(農業農村工学会誌)」平成23年秋季~冬季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成23年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して、水を制する、水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの機能を発揮するとともに、年月を重ねることでその地域の自然や文化にけい込み、その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが大規模プロジェクトで建設されたものでなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域には、規模に違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含み景観の美しさを再評価いただいて、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、「秋」、「冬」が感じられる「水利遺構」の写真を集めます。

記

1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」
(昨年と同様)

2. 対象巻号

学会誌第79巻(平成23年1~12月号)のうち、特に秋季~冬季のもの

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラ

の場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定)撮影して下さい(サイズは六ツ切)。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締 切

平成22年3月31日(秋季~冬季の写真)

6. 審 査

審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

7. 結果発表

学会誌第79巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成23年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝 礼

採用作品には規定の賞金(1点につき3万円)をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History(表紙写真由来)」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History(表紙写真由来)」をご執筆頂きます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用権

採用作品の使用権は(社)農業農村工学会に属します。

11. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ等）、対象物の固有名詞（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(社) 農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 78, 79 巻の小特集のテーマ

| 小 特 集 テ ー マ | 要 旨 縮 切 (A4判 1,500字以内) | 原 稿 縮 切 (刷上り 4ページ厳守) |
|--|------------------------------|----------------------------|
| 78 巻 5 号 農用地整備による地域の振興 (仮) | 公募せず | |
| 6 号 自然と共生する兵庫の水利ネットワーク保全の取組み (仮) | 公募せず | |
| 7 号 田園地域・里地里山の保全と生物多様性 (仮) | 公募終了 | |
| 8 号 農業農村工学分野における再生可能エネルギーの利用技術 (仮) | 公募終了 | 平成 22 年 4 月 12 日 |
| 9 号 広域的な防災・減災技術とリスク管理による災害に強い農村づくり (仮) | 平成 22 年 3 月 25 日 | 平成 22 年 5 月 10 日 |
| 10 号 農業農村整備事業を契機とした農村環境の保全 (仮) | 平成 22 年 4 月 25 日 | 平成 22 年 6 月 10 日 |
| 11 号 コスト縮減に資する圃場整備 (仮) | 平成 22 年 5 月 25 日 | 平成 22 年 7 月 12 日 |
| 12 号 地域貢献とフィールド研究 (仮) | 平成 22 年 6 月 25 日 | 平成 22 年 8 月 12 日 |
| 79 巻 1 号 教育の場における次世代育成の現状と課題 (仮) | 平成 22 年 7 月 26 日 | 平成 22 年 9 月 10 日 |
| 2 号 ため池と農業農村工学 (仮) | 平成 22 年 8 月 25 日 | 平成 22 年 10 月 12 日 |

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

ます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

78 巻 9 号テーマ 「広域的な防災・減災技術とリスク管理による災害に強い農村づくり」(仮)

近年は、地震や集中豪雨による洪水・土石流、地すべりなどの農村社会に被害をもたらす災害が頻発し、広域的な災害リスク管理の必要性が増している。今後のさらなる地球温暖化による気候変動が、これらの災害被害を増大させる懸念もあり、これまで以上に広域的な視点での防災や減災の技術とリスク管理が求められる。

農業農村工学は農村社会や住民生活に密接した分野であり、広域的な災害リスク管理においても、災害の被災予測やハザードマップ等の情報管理から、総合的な防災・減災技術や復旧支援まで多様な面で重要な役割が期待されている。

さらに近年は農村社会において、過疎化、混住化などの住民構成の変化、ため池下流部や低平地への宅地の拡大など社会構造の変化に伴い、農村地域特有の新たな防災課題も生まれている。また、減災に向けた農用地の総合治水利用など、新たな取り組みも見られはじめ、その際のハード面、ソフト面での課題も次第に明らかになってきている。

本特集では、多様な災害に強いこれからの農村づくりのために、近年の新たな課題をふまえた広域防災および地域防災に関する技術開発や取り組みについて広く公募する。

78 巻 10 号テーマ 「農業農村整備事業を契機とした農村環境の保全」(仮)

農業農村整備事業は、農業生産基盤や農村生活環境を整備・保全することを通じ、二次的自然である農村環境を健全な状態

に維持保全するとともに質的な向上を図り、従前の環境の再生や新たな環境の形成に寄与するものです。

近年、多くの人々が豊かな農村環境とのふれあいを求める一方、農村では過疎化、高齢化に伴い、二次的自然や地域資源の質的低下が課題となっていることから、農村環境保全の取組みにおける住民参加や多様な主体の参画の促進が重要となっています。

したがって、今後、農業農村整備事業については、同一の構想・理念のもと、地域全体で調和のとれた環境保全を進めるた

め、農村環境の保全に視点をおいた地域づくりを積極的に推進していく必要があります。

そこで、本特集では、農業農村整備事業を契機として、地域の複数の主体の参画を得て、地域の個性を活かした環境保全活動や地域づくりを進めている事例について、その取組み状況や現在の体制に至る経緯などの報文を広く募集いたします。

78巻11号テーマ 「コスト縮減に資する圃場整備」(仮)

農業生産基盤整備の実施に当たっては、地域の実情に即して、効率的、効果的な事業の実施が求められており、総合的なコスト縮減の推進を図ることが食料・農業・農村基本計画にも示されています。また、担い手への農地集積等の農政課題に適切に対応していくためには、圃場整備への投資が今後も重要となってきます。

しかし、近年の米価の低迷等による農家所得の減少等により、圃場整備に対する農家の投資意欲が減退しています。

このため、地域農業の持続的な発展に資する基盤整備を今後

とも実施していくために、たとえば、農地の利用集積の状況など地域の農業構造改革の進展に応じて、畦畔撤去による最小限度の整備で区画の拡大を図り、機械の大型化や水管理労力の節減を図るなど、少ないコストで担い手へ農地集積する効果の高い、圃場整備技術の普及が必要です。

そこで、本特集では、更なる担い手への育成・確保の契機となる整備手法を推進し、農村社会の持続的な発展に資するため、地域ごとに取組むコスト縮減に資する圃場整備技術を導入した基盤整備の取組みについての報文を広く公募いたします。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2010年3月末に Vol.8, No.1 が発刊される予定です。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを希望します。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気

象環境)

- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
 - ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)
- 水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、年4回無料で配布されます。

出版社 : Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール : 2003年3月創刊, 以後3か月ごと

国際学会会費 : 正会員 12,000 円/年/4冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500 円/年/4冊 (送料等学会負担)

申込先 : 農業農村工学会編集出版部 馬目あて

ホームページ : <http://www.jsidre.or.jp>

※入会のお申込は、学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたは FAX でお申し込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2009年1月から2011年12月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2010年3月末に Vol. 8, No. 1 が発刊される予定です。

わが国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指してきました。

また、世界 13 カ国から Editor (14 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer-Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年 4 回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

このような努力が実り、2009年12月、本ジャーナルがトムソン・ロイター社の SCIE に収録され、インパクトファクターを獲得したというビッグニュースが飛び込んできました。詳細については Editor-in-Chief による海外ニュースが本誌 1 月号 88 ページに掲載されていますのでご参照下さい。

2009年1月から2011年12月までの編集事務局（投稿先）は、台湾になります。

投稿先：Yu-Pin Lin, Ph. D., Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering National Taiwan University

No. 1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R. O. C)

E-mail : yplin@ntu.edu.tw

TEL : +8862-2-3366-3467

FAX : +8862-2-2363-5854

(During Jan. 2009 to Dec. 2011)

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等 である。

編集体制

• **Editor-in-Chief** : Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

Professor Emeritus, Kyushu University, Japan

• **Editors** 13 カ国から 14 名

• **Editing Board** 32 名

• **Managing Editors**

Chief Managing Editor : Prof. Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

Dr. Katsuyuki SHINOBI

National Institute for Rural Engineering, Tsukuba, Japan

Prof. Dr. Haruhiko HORINO

Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Osaka, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Utsunomiya, Japan

Prof. Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

出版社：Springer-Verlag 社（ドイツ）

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jp に詳細を記載しています。